・Aさんが「こんなこと話すつもりはなかったんですけど」 とおっしゃって、家族の話をしてくださったのは、
まさしく「リフレクティング」が行われたということですね。
ゆっくりお茶でも飲みながら、講師の皆さんとお話したいなあと思いました。
・Aさんのご苦労話・心が通う対話
・三ツ井さんをはじめ、講師の方々の感受性の高さ、志の高さが印象的でした。
同じ「当事者」という言葉でもそれぞれの受け止め方が違うという話。
・オープンダイアローグのデモストレーション
・「本人の事をスタッフだけで本人のいないところで話すのをやめる」
・「『じんかれん』のような日本の家族会は、海外で話しても評価される。『家族の声も聴いて下さい』という運動がもっとあると良い」
という三ツ井さんの言葉。
【自分の生活に役立てられそうと思うこと。】
・鎌倉の相談員、事業所の管理者、親、いろいろな立場としてとても役に立った。
・当事者を、信じて信じて寄り添うこと。
・家族の力も信じて対話していきたいと思った。
・オープンダイアローグの7つの原則の中で、全て日常生活に注意していきたいと思った。
・思いを言葉に出せるように心がける、のは大切。
・家族とのありのままの対話を続けて行きたい。
・現実に焦点を当てるのではなく、どうすれば良いのかを考える。
・訪問看護をするときの心構えとして、オープンダイアローグを大切にしていきたい。
・病気(が良くなる)のことばかり心配しないで、我が子として、また、人生を共に歩む人としてつきあっていきたい。
・訪問者との相性もある。
・当事者の話を、もっとじっくり聞くようにしようと思った。
・家族のつながりの大切さを更に感じた。
・目的を持って話すのではなく、話す(対話する)副産物だという、力の抜けた思い。
・当事者の対応についての話し方に学ぶべきところがあった。
・福祉事業所の利用者様と会話をするとき、面談するときも、支援者主体から脱し、
利用者様と一緒に本人のペースで一つ一つ会話が出来れば良いと思った。
・自分の生活に役に立てそう、とても参考になった。
・言葉を聴くということは、心に寄り添うということだとよく解りました。 今後の生活の中で活かしたいと思います。
・息子と親子の会話はすぐ感情的な対立になり難しいので、社会ネットワーク(つながりのある人々等)の方を招き、
オープンダイアローグが実施できればと思います。
・当事者との日常の対話を通じて、心が通じる対話が出来るよう努力したい
・本人の話の内容(妄想)に焦点を置くのではなく、本人の状態・感情に目を向けて行こうと思った。
・「本人の事をスタッフだけで本人のいないところで話す事をしない」と言う事を大切に考える。
【気づいたこと自由に】
・とても共感する講演会でした。共感と同情とは違い、寄り添うと支援の在り方も難しいと思いました。
これからもっと勉強したいと思いました。
本日は、準備から企画から全て、本当にありがとうございました。
・デモンストレーションが、理解しやすいと思います。
出演者(家族会等)に、もう少し準備をしてあげれば良かったのではと思います。
・対話のデモンストレーションを見て、はじめて、オープンダイアローグの"かたち"を知りました。
訪問看護をお願いしないと、オープンダイアローグを実践することは出来ないのでしょうか?
・オンラインでの講演会は初めてです。後援者の呼吸や人柄が伝わりづらく、少し残念な気持ちがしました。
家族会からのお話があり、お話を受けて講演者から対話や受け止め方の見本を学んだ。
・オンライン講演会は初めてで、もどかしく、直接お話を聞くのとは違うな、とも思いましたが
リモートだからできる講演会があると、新しい可能性を感じました。
・訪問看護に興味を持てました。
・ズームならではのプロブレムがあったかと思いますが、最終的には温かい気持ちに包まれた閉会となり、
かえって良かったと思う。
・オンラインのこのような講演会でも、心の交流が持てるのだということがわかった。
・海外の精神医療が進んでいるのでうらやましい。私の娘は、入院して症状が悪化した。以前20年かかって治ったのに、
戻ってしまった。薬では治らない。
・リモートでこんな会が出来るのが、本当に便利な世の中になったと思った。